

オリックス生命保険株式会社

Micro Focus UFT Oneを採用し
テスト自動化を全社で推進、
より競争力の高い保険商品の開発を加速

概要

オリックス生命保険株式会社(以下、オリックス生命)は、オリックスグループの一員として1991年に設立されました。代理店、銀行窓販、直販、WEB・通販など複数の販売チャネルを通じて保険商品を提供し、チャネルごとに必要な機能を有したおよそ50のシステムを開発・運用しています。新商品の開発、既存商品のリニューアル、保険料率の改定などが加速する中、保険商品と一体となって提供される各種アプリケーションへの開発要求は厳しさを増しています。オリックス生命は、アプリケーション開発・改修プロセスにおいて多くを占めるテスト工数の低減、テスト環境と手順の標準化を目指して、機能テスト自動化ソリューション「UFT One」を採用しました。

「最も大きな成果は開発者の生産性の向上です。自動化できるところはUFT Oneに任せ、開発者がより価値の高い業務へ注力できるようになったことが何より重要です。テストの自動化は、デグレードを解消してアプリケーションの高品質化に結びつきます」

オリックス生命保険株式会社
ITプロダクトマネジメント部
松井 康浩氏

課題

「CURENext(キュア・ネクスト)」は、オリックス生命の主力商品のひとつで、七大生活習慣病に対する手厚い保障が受けられる人気の高い医療保険です。医療保障へのニーズをいち早く捉えた同社は、2021年度に個人保険の保有契約が480万件を突破するなど着実にビジネスを伸ばさせており、オリックスグループの中でも強い存在感を示しています。ITプロダクトマネジメント部に所属し、「テストニングCoE」のリーダーを務める松井康浩氏は次のように話します。

「医療保険を含む個人向け保険商品の市場競争が激しさを増しています。お客様のニーズにお応えするために保険商品は多様化し、新商品の開発、既存商品のリニューアル、保険料率見直しなどのサイクルも早まっています。保険業務を支えるシステム/アプリケーションの品質を維持・向上させながら、アプリケーション開発を効率化・スピード化することは喫緊の課題です」

生命保険の業務には大きく、募集、申込、受付、査定、保全、保険金支払いのフェーズがあり、オリックス生命ではそれぞれの工程を支えるおよそ50システムを開発・運用しています。同社では半年に1度のペースで新商品をリリースしてきましたが、このサイクルを短縮する計画も動き出しました。



概要:

- **業界**
生命保険
- **本社所在地**
東京
- **課題**
保険商品と一体となって提供される各種アプリケーションのテスト工数の低減、テスト環境と手順の標準化
- **ソリューション**
機能テスト自動化ソリューション「UFT One」を採用し、新規開発・改修などに伴う各種テストを効率化
- **成果**
 - + 1システムあたり1時間を要していた打鍵によるリグレッションテストを10分以内に短縮
 - + 保険料計算などのデータ駆動型テストを自動化し部門全体で標準化
 - + テストの効率化がアプリケーションの高品質化に寄与
 - + ヒューマンエラーによるテストの失敗や手戻りを防止
 - + 開発者の生産性向上とより価値の高い業務への注力

「2022年4月にITプロダクトマネジメント部を新設し、縦割りだったアプリケーション開発と運用、ITインフラ運用を一貫してサポートする体制に移行しました。これに先立って、横断的にテスト環境の標準化を担う『テストティングCoE』が編成され、大きな工数・コストが発生しているテスト工程の見直しに取り組んでいます」(松井康浩氏)

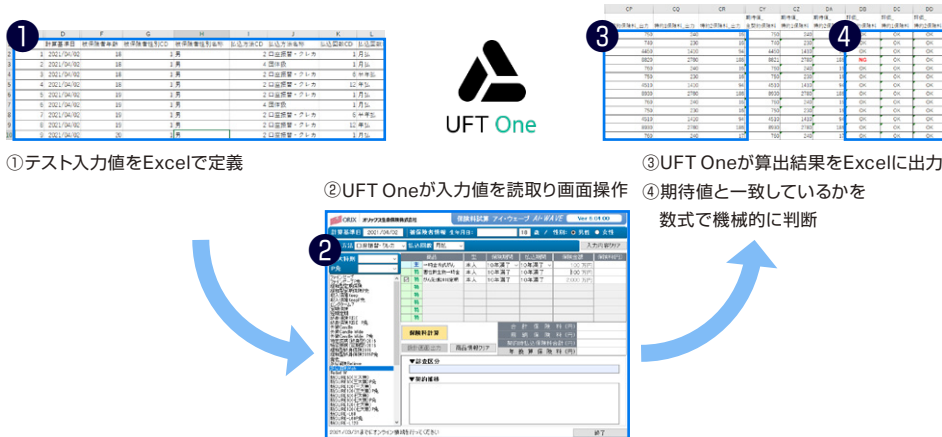
保険商品ごとに複雑かつ大量のデータパターンがある「保険料計算」は、アプリケーションの不具合に起因するミスの絶対に許されない領域の代表例です。アプリケーションの開発・改修時には、多段階に及ぶテストと確認作業が不可欠で、これがテスト工数とコストを膨らませる要因になっていました。

「開発者がテスト工程を兼務していたこと、多くの手作業が残っていたことも問題でした。一方で、改修後にアプリケーションの品質が低下するような事象も発生していました。私たちは、まず『開発とテストを分離』し、さらに『テスト自動化を導入』することで問題を一掃する方針を固めました。慎重に検討を進め、機能テストを自動化するツールとしてMicro Focusの『UFT One』を採用しました」(松井康浩氏)



オリックス生命保険株式会社
ITプロダクトマネジメント部
松井康浩氏

データ駆動型テストの自動化



ソリューション

横断的にテスト自動化を推進

Micro Focusの「UFT One」は、豊富な実績を持つ機能テスト自動化ソリューションです。松井康浩氏をリーダーとするテストティングCoEは、UFT Oneの導入、社内ワークショップの実施やユーザーマニュアルの整備を通じた活用促進、テスト自動化の実装とテスト工程の標準化をリードしています。

「保険料計算に応用できる『データ駆動型テスト』を容易に行えること、スケジューリングによるテストの自動実行が可能なこと、GUIテストに加えAPIテストも行えるため応用範囲が広いこと、さらに、オフショアを含む私たちの開発パートナーに使用経験があることが、UFT Oneを採用する決め手になりました」と松井康浩氏は振り返る。

ITプロダクトマネジメント部は、システム/アプリケーション開発プロジェクトにおける企画・設計段階に注力し、開発工程は経験豊富なパートナー企業と協力して

いる。単体テストを開発パートナー、結合テスト/システムテスト/受入テストはITプロダクトマネジメント部がそれぞれ担当する体制だ。

「UFT Oneが備える『データ駆動型テスト』機能により、保険料計算が正しく実行されているかを確認する工程が自動化されました。手順はシンプルかつ容易です。事前にExcelで用意した年齢・性別・プランなどのテスト入力値をUFT Oneが読み取って、アプリケーション画面を自動操作しながら保険料を算出します。算出された保険料はUFT OneによりExcelへ自動出力されますので、事前に用意した期待値と一致しているか機械的に判断できます」(松井康浩氏)

UFT Oneはこの工程を数万パターン自動実行し、エビデンス(証跡)となる画面キャプチャも自動的に取得します。従来は、開発者それぞれが工夫したツールを使っていたものの、テスト設計、実行、エビデンスの整形まで多くの工程に手作業を残していました。UFT Oneによりこれらの工程が自動化され、開発者の仕事は大きく変わりました。

「データ駆動型テストの自動化により、開発者がテスト実行をUFT Oneに任せて、より価値の高い業務に注力できるようになったことが大きな成果です。ヒューマンエラーによるテストの失敗や手戻りを解消したことを含め、開発生産性を大きく高めることができました。このUFT Oneによるテスト自動化をスタンダードとして、適用アプリケーションを順次拡大しています。2022年8月時点で、主要アプリケーションの機能テストの70%以上を自動化しています」(松井康浩氏)

高頻度のリグレッションテストを自動化

「UFT Oneによるテスト自動化は様々な対象への適用が可能です。オリックス生命では、多くを手作業に依存していた「リグレッション(回帰)テスト」にもUFT Oneの活用を開始しました。ITプロダクトマネジメント部でアプリケーション運用に携わる松井梨紗子氏は次のように話します。

「サーバーOS、クライアントOS、Webブラウザなどのアップデートやセキュリティパッチの適用に伴い、主要システム/アプリケーションの動作に不具合が発生しないか打鍵・手入力による独自のテストを行っていました。テストには1システムあたりおよそ1時間を

要していましたが、UFT Oneによる自動化でエビデンスを確認するだけの10分以内に短縮できました。テスト工程の効率化に伴い、リグレッションテストの範囲を現状の13システムから大きく拡大する予定です」

オリックス生命では、独自のガイドラインを制定して自社サービス品質の維持・向上に向けた様々な取り組みを行っています。人手を介していた様々な作業は、徐々にUFT Oneによる自動化されたプロセスに移行しつつあります。

「お客様や募集人の方が利用するシステムは朝6時頃からご利用いただけます。しかし、過去に朝6時の時点でシステムがご利用いただけない障害が発生したことがあり、発生した時間は多くの社員が出勤前という状況で検知と対応が遅くなってしまいました。その暫定対応として、朝6時に正しくサービスを開始できているか、機能に問題ないか等をアプリケーション運用チームのメンバーが輪番で確認していたのですが、ここにUFT Oneを適用しました。UFT Oneで朝6時にテストを起動することで、確認作業を自動化したのです」(松井梨紗子氏)

成果

高品質化と開発のスピード化へ

UFT Oneによるテスト自動化は、アプリケーションの開発・改修プロセスの効率化に大きく寄与しました。さらに、アプリケーションの高品質化と開発のスピード化が期待されています。

「最も大きな成果は開発者の生産性の向上です。自動化できる場所はUFT Oneに任せ、開発者がより価値の高い業務へ注力できるようになったことが何より重要です。テストの自動化は、デグレードを解消してアプリケーションの高品質化に結びつきます。また、『開発とテストの分離』と『テスト自動化』の相乗効果により、開発のスピード化にもつながるはず」と松井康浩氏は話します。

- テスト自動化による開発者の生産性向上
- 正確で確実なテストを通じたアプリケーションの高品質化、開発のスピード化
- チーム全体での活用推進による投資対効果の向上

APIテストへの応用を推進

テストCoEでは、UFT Oneの更なる適用範囲の拡大に着手しています。エンタープライズ領域で実績を積み重ねてきたUFT Oneは多彩な機能を備えており、これを使いこなすことでテスト自動化の成果をさらに高めていくことができます。

「目の前のテーマのひとつはAPIのテストへの適用です。証券番号からご契約内容を照会するような共通機能は、複数のシステムからAPIを呼び出す典型的な例です。APIにはGUI(画面)がありませんので、テスト用のダミー画面を用意しなければならず、プロジェクトごとにこれを行うことは非効率です。テストCoEでは、UFT OneのAPIテスト機能をITプロダクトマネジメント部全体でスタンダードとして活用し、重複作業やムダを排除することを提案しています」(松井康浩氏)



オリックス生命保険株式会社
ITプロダクトマネジメント部
松井 梨紗子 氏

「テスト工程の上流から下流まで一貫して
UFT Oneを利用できるようにするとともに、
より多くの開発者がUFT Oneが備える豊富な機能
を使いこなせるよう支援していきます」

オリックス生命保険株式会社
ITプロダクトマネジメント部
松井 康浩氏

お問い合わせ先:
www.microfocus.com

さらに、オフショア開発パートナーを含めたUFT Oneの活用を進めることで、単体テスト、結合テスト、システムテスト、受入テストまで一貫してテストの均質化が可能になります。松井康浩氏は次のように結びました。

「テストイングCoEとして、テスト工程の上流から下流まで一貫してUFT Oneを利用でき

るようにするとともに、より多くの開発者がUFT Oneが備える豊富な機能を使いこなせるよう支援していきます。そして、ITプロダクトマネジメント部全体の生産性向上と、競争力の高い保険商品の開発に貢献したいと考えています。Micro Focus社には、タイムリーな技術情報の提供を期待しています」



マイクロフォーカスエンタープライズ株式会社
jp-info-enterprise@microfocus.com
www.microfocus-enterprise.co.jp